

□ 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

集団のなかには、一人くらいみんなを困らせる人間がいるものだ。タイプはいろいろだが、決して自分の意見を曲げようとしない頑固者もその一人だろう。

和を尊ぶ伝統に支えられてきた日本人としては、「いいかげんにしてくれよ」と言いたくなるようなやつ。でも、そういう人間が一人でもいることは、集団にとってプラスになるということも知ってほしい。

おもしろい心理学の実験がある。

色、形、大きさ、線の種類がそれぞれ違った六四枚の図形を次々と提示し、被験者はどれかの特性で答えていくというものだ。この実験には二つのポイントがある。

第一のポイントは、答えは色か、形か、^a大小か、線の種類のどれか一つだけということ。赤くて、丸くて、大きい図形の場合、必ず「赤い」「丸い」「大きい」のいずれかで答える。「赤くて大きい」と答えてはいけないのである。

第二のポイントは、実験を、みんなの見ている前で一人ずつ順繰りに進めていくということ。つまり、ほかの人がどう答えるか、ほかの被験者もみんな知ることができる。

□ この実験でどんなことがわかったのか。回答の一般的な傾向としては、示された図形のいちばん印象に残る特性で答える人が多かった。これは予想のつくことだ。大きい図形の次に小さい図形が提示されれば、色がどうあれ「小さい」と答えるだろう。

小さい図形の次に中くらいの図形が提示されても、赤色が強く印象づけられれば、「赤い」と答えるだろう。選択肢は四つあるから、回答はおのずとバラけたものになった。だが、この実験には秘密の工夫がなされていた。

被験者のなかに一人 サクラがいて、サクラはすべて回答を色でするように指示されていたのだ。サクラは提示された六四の図形すべてを、「赤」「青」「黄色」「赤」「赤」というように色で答えた。

すると おもしろいことが起きた。このサクラよりあとに答える人たちの回答の質が違ってきたのだ。明らかに色の回答率が増加し、サクラと同じように色だけで回答する人間も現れた。これは何を物語るのか。

集団や組織のなかに頑固一徹、決めたら絶対に変えない者がいると、その中身がどうあれ、ほかへ影響をおよぼすようになるということだ。このことは、「少数者の集団への影響力」を考えるうえで、「非常に参考になる事実だ」と思う。

□ 2、集団が多数決で何かを決めようとしているとき、断固反対を賣く人間が一人でもいて、その人間がいつまでも態度を変えないでいると、いつのまにかその考えに同調する人間が現れてくる可能性があるということである。

逆に言えば、その時点でいかに孤立無援であっても、信念をもっているなら、それを貫くと、やがては同調者が現れるということ。頑固者は全体から見ると、厄介者だったり迷惑だったりするが、役に立つこともあるということだ。

自分が誰からも支持されないようなときでも、早々とあきらめてはいけない。がんばってがんばって主張しつづければ、必ず支援者や同調者が現れる。

□ 3、自分たちのなかにいる頑固者を排除するのではなく、貴重な存在として遇してあげよう。それが健全な集団を維持する秘訣である。

(川北 義則 『人間関係のしきたり』)

被験者…実験の対象となる人。実験を受ける人。

サクラ…回答の仕方について事前に指示を受けている者のこと。

遇する…もてなす。取り扱う。

問1 線 「そういう人間」とありますが、どついう人間ですか。本文中より二十字で抜き出しなさい。

問2 線 「おもしろい心理学の実験」とありますが、この実験の第二のポイントのねらいはどついうことですか。本文中のことばを使って答えなさい。

問3 □ 1 □ 3 に適することばを、次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア また
- イ さて
- ウ しかし
- エ つまり

1	
2	
3	

問4 線 a～dの熟語の構成の仕方と同じものを次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 悲喜
- イ 美人
- ウ 無害
- エ 進行

a			
b			
c			
d			

問5 線 「選択肢は四つある」とありますが、四つの選択肢とは何ですか、それぞれ答えなさい。

問6 線 「秘密の工夫」とありますが、この「工夫」のねらいとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 少数者の、集団への影響力を確かめるといふこと。
- イ 多数者の、少数者への影響力を確かめるといふこと。
- ウ 孤立無援な頑固者の、信念の強さを確かめるといふこと。
- エ 人々が興味を示す色の傾向を確かめるといふこと。

問7 線 「おもしろいこと」とありますが、具体的にどのようなことを指していますか。解答欄に合う形で、本文中のことはを使って答えなさい。

・これまでの回答は、

のに対し、

こと。

問8 この文章のまとめとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 集団に影響をおよぼす頑固者は、みんなを困らせるので排除すべきである。
- イ 集団のなかに頑固者がいることは、集団にとってプラスになる。集団をまとめるためには、孤立無援な人をなくすることが大切である。
- エ 人の考えはさまざまだが、集団をまとめることをあきらめてはいけない。

二 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

校医さんだという死にそうなラクターのようなおじいさんが、私の歯を見て開口一番「こりやだめだ」と言ったから、私は例によって絶望した。毎年五月、恒例の絶望 歯科検診だ。

冷たい銀色の棒が口の中突っ込まれる。おじいさんが上の歯から順に口の中を、テンケンしていき、「C1、C2、C2・C2・C2・C2・C2・C2」とかなんとかつぶやく。銀色の棒は歯にぶつかるとびかちかちと硬質な音を立てた。昔は暗号か呪文みたいにしか聞こえなかったそのつぶやくも、四年生ともなればさすがに意味がわかる。「C」は虫歯ということ、そのあとにつく1から4までの数字は虫歯の度合い。「インレー」といっつのはどつも、虫歯を治した歯のことを言っているらしい。おじいさんが灰色のおごひげを撫でながら「ん・ん・C4」とつぶやいたので、私は絶望のさらに底に落ちることされた。

【中略】

夕食の後片付けを終えたあとで、ランドセルから出したピンクの紙をお母さんに見せた。お母さんはエプロンを外しながら「はあはあ、まあまあ」と気の抜けた返事をよこしたあと、紙を受け取って大きくため息をついた。

「セン、寝る前にちゃんと歯、みがいてんの?」
私は「うん、ちゃんとみがいてる」となるべくきちんと聞こえるように返事をした。テレビを見たりマンガを読んだりしながら「歯みがきだとはバレないように。けれどもお母さんは「鏡見てみがいてないでしょ」とあっさり指摘した。

怒られるかな、と思ったのだけれど、お母さんはしばらく何か考えるように腕組みをしていた。そしてふと私と目を合わせると、いかにもな作り笑いをして話しかけてきた。

「セン、四年生だし、もうひとりで歯医者・・・」
「やだっ」

最後まで聞かずにさえぎった。私の頭の中にはもう、茶色いガラスでできた「崎山歯科」の扉が再現されている。ただでさえ怖い歯医者への入り口を、不透明なガラスでつくるなんて絶対におかしい。前歯と鼻の間あたりにつんとくる歯医者特有のにおいが、重い扉からも不思議と漏れて、気持ちよけいに毛羽立たせる。いつもは先に立ったばあちゃんがドアを開けるので、仕方なく入るけれど、もし付き添いが居なかったら、私はあのドアを開けられない。暗くなるまで立ち尽くしている気がする。

それに、待合室だって嫌いだ。大人向けのビュウカンシと、小さい子向けの童話の絵本しかない本棚、染みのついたソファ。なんだか冷たい感じのする、背の高い受付カウンターも気に入らない。もっと嫌なのは、同じ学校の仲良くない子と鉢合わせすることだった。何かしゃべったほうがいいのかな、でもなんにも話すことないな、というあの間が嫌だ。私は同じ学校の子と目を合わせないように、いつもばあちゃんの陰に隠れていた。診察室からは絶えずキンキンと工具のうなりが聞こえていて、よけいに私の背筋をこわばらせた。

「ばあちゃんに連れてってもらおう!」

私が主張すると、お母さんは再びため息をついた。

「でもばあちゃん、最近足痛いって言ってるでしょう。歯医者は遠いからねえ」

ぎくりとする。確かにそうだ。去年の歯医者の行き帰りだって、ばあちゃんは「ちよっと休も」と言ってしよっちゅう腰を下ろしていた。八百屋の奥だったり、甘味屋の前のベンチだったり、商店街のいろんな場所を借りながら歩いて通ったのだった。

私が肩を落とすと、お母さんが私の顔をのぞき込んで言った。

「隣の歯医者に行こうか?」

それは思ってもみない提案だった。「え?」と頭を上げると、お母さんが続けた。

「ほら、ニュータウンのほうに、新しい歯医者ができたでしょう。あそこ、休日診療してるって話だから、日曜日に車で連れてってあげる」
一年くらい前、隣の外れにカラフルな壁の家がたくさん建った。その中に、「おおぎデンタルクリニック」という。カンバンがあった。国道から見えるその歯医者は、他の住宅と同じようにパステルカラーをしていて、形もかわいい三角屋根だった。隣には、小さなユウグのある公園までついている。

けれど、パステルカラーの建物なんて自分には全く関係ないものだと思っていた。私にとっては、家も学校も歯医者も、この町にある古びた建物でなければならぬような、それがさだめであるような気がしていたからだ。

「ほんとに?」

歯医者の話なのに、私は思わず「食いついていた。お母さんは、とにかく私が歯医者に行ってくれることに安心したのか、にこにこしながら「ほんとよお」と言った。

「じゃあ、もう、明後日にしようねえ」
「えっ」

それはさっそく過ぎる、と思ったのだけれど、お母さんはしつかりとピンクの紙の端をにぎって、台所の隅にエプロンを引っかける階段をのぼっていつてしまった。反抗の余地なし。

ひとり残された私は、口を閉じてから、舌で左の奥歯をモソモソとさぐった。「C4」と言われた左下なほどの歯は、マンホールさながらの大げさな穴を空けている。パステルカラーの歯医者さんなら、魔法みたいに簡単にこの虫歯を治してくれるかも。

(豊島 ミホ 五月の虫歯)

セン・・・主人公 大原千里 母から「セン」と呼ばれている。

問1 線 「開口一番」の意味を答えなさい。

問2 線 a～dのカタカナを漢字に直しなさい。

a	テンケン	b	シュウカンシ
c	カンバン	d	ユウグ

問3 線 「夕食の後片付け」とありますが、この「夕食」は何曜日の夕食ですか、答えなさい。

Answer box for Question 3

問4 線 「気持ちをよけいに毛羽立たせる」について。

()が「気持ちをよけいに毛羽立たせる」のですか。十字以内で答えなさい。

Answer box for Question 4

()「気持ちをよけいに毛羽立たせる」とは、この場合、どのような気持ちがどのようになることを言っているのですか。自分のことばでわかりやすく答えなさい。

Answer box for Question 4

問5 線 「私が肩を落とす」とありますが、その理由として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が「ながら」歯みがきをしていたことを反省しているから。
- イ お母さんが歯医者と一緒に行ってくれないので悲しくなったから。
- ウ 足の痛いはあちゃんに連れていってもらったことを後悔しているから。
- エ 結局一人で歯医者に行かねばならないと思い、がっかりしたから。

Answer box for Question 5

問6 線 「食いついていた」とありますが、ここではどういう意味ですか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 用心深くんでいた。
- イ しっかりとかまえていた。
- ウ 喜んで飛びついていて。
- エ 必死に食ってかかっていた。

Answer box for Question 6

問7 「お母さん」は「セン」の気持ちがかわらないうちに話題を終わらせるため、どのような行動をとっていますか。それが示されている一文を本文中より抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

初め					
終わり					

問8 線 「パステルカラーの歯医者さんなら、魔法みたいに簡単にこの虫歯を治してくれるかも」とありますが、このときの「セン」の心情の説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 歯医者は苦手なはずなのに、隣の雰囲気ふんいきだけで気持ちが前向きになっている。
- イ 母親の「思ってもみない提案」が自分に魔法をかけたのだと、幸せな気持ちになっている。
- ウ 母親が歯医者に付いてきてくれるので、苦手な歯医者なのに行くのが待ち遠しくなっている。
- エ 新しい歯医者への期待で、虫歯になったのも悪くないと思っている。

Answer box for Question 8

問9 次の1～5の()に適切な漢字一字を入れて慣用句を完成させなさい。また、それらは、後のア～オのどの文の「 」にあてはまりますか。それぞれ記号で答えなさい。

- 1 () を巻いた
- 2 () を貸そうとしない
- 3 () が軽い
- 4 () が立たない
- 5 () が出ない

- ア みごとな演技に観衆は「 」。
- イ 値段が高くて「 」。
- ウ Aチームは強すぎてとても「 」。
- エ あの人は先生の忠告に「 」。
- オ 彼は「 」のであまり信用できない。

漢字	1	2	3	4	5
記号	1	2	3	4	5

問10 次の1～5の各文と同じ表現技法が用いられている文を、後のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 ろうかをばたばたと走ってはいけません。
- 2 赤ちゃんがよちよちと歩き始めた。
- 3 彼女の笑顔はひまわりのようだ。
- 4 おだやかな春の陽射しがあなたにほほえんだ。
- 5 山は高くそびえ、海は青く澄んでいる。

- ア 彼女のひとみはきらきらと輝いている。
- イ 夏の海が私を呼んでいる。
- ウ 父は厳しく、母は優しく私を育ててくれた。
- エ ザアザアという雨音で目が覚めた。
- オ 彼は氷のように冷たい表情で私を見つめた。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---